

平成27年度

熊本駅前看護リハビリテーション学院

自己評価報告書

目次

自己評価報告書

【基準1 教育理念・目標】	1
【基準2 学校運営】	2
【基準3 教育活動】	4
【基準4 生徒指導等】	6
【基準5 特別活動等】	7
【基準6 学修成果】	8
【基準7 生徒支援】	9
【基準8 教育環境】	10
【基準9 生徒の受入れ募集】	11
【基準10 財務】	12
【基準11 法令等の遵守】	13
【基準12 社会貢献・地域貢献】	14

自己評価報告書

この自己評価報告書は、熊本駅前看護リハビリテーション学院の自己評価活動の結果を記したものである。

平成28年9月13日

理事長

竹村 照章

学校長

高野 茂

自己評価責任者

羽山 賢一

白石 正行

平成28年6月21日～平成28年7月8日において、生徒、保護者、職員を対象としてアンケートを実施した。
 生徒273人配布(回収258人) 保護者273人配布(回収238人) 職員35人配布(回収.33人)
 各項目5段階で評価 (1:不十分 2:やや不十分 3:どちらともいえない 4:おおむねよい 5:よい)

(1) 自己評価・評価基準

基準1. 教育理念・目標 自己評価項目	
点検項目:教育理念(建学の精神)・目的・目標、育人人材像が、明文化(文章等にまとめ他者が確認できる状態)しているか。 上記において職業教育機関と専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容などを盛り込んであるか。	
項目総括	特記事項(課題と解決方法)
<p>教育理念は開校当初より明文化され、教職員と生徒・保護者に学生便覧等で周知されています。 生徒・保護者については教職員に比べ、数値が若干低くなっており、更なる周知徹底に努める必要があります。</p> <p>【教育の理念】 ・愛は医の道の出発点である 愛の心を持って病める人の心と身体を癒そう ・和は社会人としての道の基本である 和の心は、人・社会・国に平和を与える ・「愛と和」の心を持ちこの学舎で共に学び 医療にたずさわる者の道を終生進もう</p> <p>【教育の方針】 ・本校は、リハビリテーション医療を通じて、社会における医療・保健・福祉の分野に貢献できる理学療法士・作業療法士・看護師を養成します。 ・教育目的、育人人材像は学科毎に明確に定められており、それを実現するための具体的な計画・方法をカリキュラムやシラバスとして定めて、時代の変化に対応した内容となるように見直しも行っていきます。 ・学校の特色については、総合パンフレットやホームページで広く公表しています。 ・学校運営奉仕や事業計画は事業計画書で定めており、毎月2回の運営委員会等で進捗を確認しています。</p>	<p>(課題) 本校の教育理念、教育目標の周知に関して生徒・保護者への周知がやや不十分である。</p> <p>(解決方法) 学生便覧以外での教育理念、教育目標の周知を検討する。</p>

評価項目			1:不十分 2:やや不十分	3:どちらともいえない	4:おおむねよい 5:よい	備考
1-1	青照学舎の掲げる建学の精神「愛と和」に基づき、高い専門性と豊かな人間性を身につけたスペシャリストの育成のための教育実践に努めている。	生: 保: 教:	10% 10% 3%	33% 34% 21%	57% 56% 76%	学生便覧 パンフレット ホームページ
1-2	本校の掲げている建学の精神や教育目標などは、生徒や保護者などに周知されている。	生: 保: 教:	22% 19% 9%	47% 37% 30%	31% 44% 61%	学生便覧 パンフレット ホームページ
1-3	各科の教育目標・人材育成は社会のニーズを踏まえたものになっている。	生: 保: 教:	10% 6% -	38% 12% -	52% 82% -	各学科ごとに教育目標を設定している。

基準2. 学校運営 自己評価項目

学校の管理・運営体制が確立しているか。

項目総括	特記事項(課題と解決方法)
<p>社会に信頼される学校であり続けるために開かれた学校づくりやコンプライアンスの徹底、人権等に配慮した取組みに努めています。また、事業計画に基づいて、計画的かつ迅速な学校運営に努めています。教職員に関しては、就業規則や給与規定の整備はされているものの、理解が不十分であり、教職員向けの研修などで理解を深めていく必要があります。</p>	<p>(課題) 項目2-3・2-4にて低評価が見られた。</p> <p>(解決方法) 各種規程、規則などの更なる周知徹底を図る。</p>

評価項目			1:不十分 2:やや不十分	3:どちらともいえない	4:おおむねよい 5:よい	備考
2-1	本校は、目的等に沿った運営方針が策定されている。	教:	21%	36%	43%	学生便覧 パンフレット ホームページ
2-2	本校は、運営方針に沿った事業計画が策定されている。	教:	21%	39%	40%	年間予算の作成
2-3	本校の運営組織や意思決定機能は、有効に機能している。	教:	30%	37%	33%	運営委員会 科長会議
2-4	本校の人事・給与に関する規程等は整備されている。	教:	37%	33%	30%	就業規則 給与規定
2-5	本校の教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されている。	教:	27%	36%	37%	教務会議
2-6	本校では、教育活動等に関する情報公開が適切になされている。	生: 保: 教:	15% 19% 15%	41% 41% 39%	44% 40% 46%	ホームページで情報公開している。
2-7	本校では、情報システム等による業務の効率化が図られている。	教:	21%	39%	40%	情報システムを整備している。
2-8	本校は、開かれた学校づくりに努めている。	生: 保:	18% 15%	42% 35%	40% 50%	努めている。
2-9	本校の運営は、組織的に効率よく行われている。	生: 保:	36% 17%	36% 39%	28% 44%	組織図 校務分掌

評価項目			1:不十分 2:やや不十分	3:どちらともいえない	4:おおむねよい 5:よい	備考
2-10	本校は、教育活動における情報システム等の充実を図っている。	生:	20%	46%	34%	講義の中で電子機器等を取り入れている。
2-11	本校の教職員の電話や来客への対応は適切である。	保:	9%	31%	60%	適切である。
2-12	本校は、学校改革に取り組んでいる。	保:	12%	48%	40%	職業実践専門課程 国家試験対策

基準3. 教育活動 自己評価項目

各学科の教育目標、育成人材像に向けて、
 ・カリキュラムの作成などの取組みをしているか
 ・社会状況、業界ニーズに対応した付加的教育の取組みをしているか。
 ・教員の資質維持や指導力等の向上を図る取組みをしているか。

項目総括	特記事項(課題と解決方法)
教育目標や育成人材像は各業界からの要望等により人材ニーズを把握し、学科の教育期間で達成可能なレベルとしています。 なお、カリキュラムは教務会議等で検討し体系的に編成されており、各科目間のつながりも概ね適正です。 教科毎のシラバスも作成されており事前に生徒に配付し、達成目標を説明しています。 また、教員については、指導力育成や必要な知識や技能を修得するための研修等が計画されていますが、参加のあり方などに課題がみられます。 成績評価・単位認定等は明確に定められており、生徒に周知徹底されています。	(課題) 研修のあり方を検討する必要があります。 (解決方法) 学術研修等を奨励し、学内でも教職員の質の向上に努めるための研修を計画・実行する。

評価項目		1:不十分 2:やや不十分	3:どちらともいえない	4:おおむねよい 5:よい	備考
3-1	本校では、教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されている。	教: 3%	33%	64%	シラバス 学生便覧
3-2	本校では、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保が明確にされている。	生: 12% 教: 0%	40% 21%	48% 79%	学生便覧
3-3	本校の各学科のカリキュラムは体系的に編成されている。	生: 11% 教: 0%	41% 21%	48% 79%	学生便覧
3-4	本校では、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されている。	教: 3%	36%	61%	教育課程編成委員会の活用
3-5	本校では、関連分野の企業・関係施設・業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われている。	教: 9%	33%	58%	教育課程編成委員会の活用
3-6	本校では、関連分野における実践的な職業教育(実習等)が体系的に位置づけられている。	教: 0%	24%	76%	各学科実習 シラバス
3-7	本校では、職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れている。	教: 6%	24%	70%	教育課程編成委員会の活用
3-8	本校の成績評価、単位認定、進級・卒業認定は適切に行われている。	教: 0%	18%	82%	判定会議
3-9	本校では、資格取得に対する指導体制やカリキュラムでの体系的な位置づけができています。	生: 13% 教: 6%	36% 24%	51% 70%	国家試験対策

評価項目			1:不十分 2:やや不十分	3:どちらともいえない	4:おおむねよい 5:よい	備考
3-10	本校では、人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保している。	教:	18%	27%	55%	長期講習
3-11	本校では、関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われている。	教:	21%	43%	36%	外部講師による講義
3-12	本校では、先端的な知識・技能を修得するための研修の取組みが行われている。	教:	36%	49%	15%	研修規程
3-13	本校では教員の指導力育成のための取組みがなされている。	教:	36%	40%	24%	研修規程
3-14	本校は、授業研究に専念できる環境が整っている。	生: 保:	29% 14%	29% 32%	42% 54%	指導要領
3-15	本校の教員は、何事にも熱心に取り組んでいる。	生: 保:	15% 10%	26% 32%	59% 58%	個別指導
3-16	本校は、講義の指導方法や内容に、工夫がなされている。	保:	11%	42%	47%	演習等
3-17	生徒は、講義を通じて確実に学力が身につけている。	保:	11%	36%	53%	総合教育 グループ学習 個別指導
3-18	生徒は、意欲的に学習するように努めている。	保:	12%	26%	62%	総合教育
3-19	生徒は、家庭学習の習慣が身につけている。	保:	15%	29%	56%	総合教育
3-20	生徒間に好ましい人間関係が構築されている。	保:	12%	25%	63%	宿泊研修 クラスマッチ

基準4. 生徒指導等 自己評価項目	
各学科の教育目標、育成人材像に向けてその達成への取組みと評価がされているか。	
項目総括	特記事項(課題と解決方法)
<p>年度開始前に科内会議、教務会議で前年度の結果や評価を考慮し、生徒に関する目標設定を行い、教職員が情報共有、周知できるようにしています。</p> <p>就職に関しては、内定状況や生徒の内定先など、就職の動きが教職員で共有できるシステムを作成し、データの管理を行っています。</p> <p>また、就職支援については生徒への求人情報の提供や保護者を含めた面接・指導を早い段階でするようにしています。</p> <p>なお、評価・成績・休学・退学等についても教務会議・運営委員会で現状や結果及び結果に対する検証を行い、教職員が情報共有しています。概ね高い評価を得ています。</p>	<p>(課題) 生徒の実態の把握と指導をさらに進める必要がある。</p> <p>(解決方法) 生徒指導の意図の徹底を図る。</p>

評価項目		1:不十分 2:やや不十分	3:どちらともいえない	4:おおむねよい 5:よい	備考
4-1	本校では、基本的な生活習慣の確立のための取組みが行われている。	生: 23% 保: 13% 教: 9%	33% 40% 27%	44% 47% 64%	生活指導 LHR・朝礼・終礼
4-2	本校では、生徒の安全管理のための取組み等(災害共済保険、スクールカウンセラーなど)が行われている。	生: 17% 保: 11% 教: 9%	30% 31% 9%	53% 58% 82%	スクールカウンセラー 災害共済保険
4-3	本校は、生徒・保護者からの相談体制が整備されている。	生: 23% 保: 14% 教: 6%	30% 42% 27%	47% 44% 67%	担任制
4-4	本校では、進学・就職指導にかかる支援体制が整備されている。	生: 15% 保: 11% 教: 18%	35% 42% 21%	50% 47% 61%	履歴書等の添削 模擬面接
4-5	本校の教員は、生徒の実態を把握して適切に指導している。	生: 25% 保: 15%	37% 42%	38% 43%	定期的な面談

基準5. 特別活動等 自己評価項目	
学校生活における特別活動等に対する支援がなされているか。	
項目総括	特記事項(課題と解決方法)
専修学校各種学校連合会主催の体育大会などへの引率、クラスマッチや文化祭などの支援体制は概ね整備されています。	(課題) 保護者への広報の充実が不十分である。 (解決方法) 保護者向けの広報活動を検討する。

評価項目			1:不十分 2:やや不十分	3:どちらともいえない	4:おおむねよい 5:よい	備考
5-1	本校は、部活動等特別活動を奨励、支援している。	生:	20%	35%	45%	部活動顧問制
		保:	15%	44%	41%	
		教:	6%	27%	67%	
5-2	本校は、保護者会等と連携した活動を推進している。	生:	31%	42%	27%	保護者会の開催
		保:	21%	47%	32%	
		教:	9%	30%	61%	

基準6. 学修成果 自己評価項目	
日常の学習や国家試験合格に向けた指導がなされているか。	
項目総括	特記事項(課題と解決方法)
国家試験・就職活動への支援は概ね出来ているが、退学対策に課題がありましたので退学者減少への取組みなどを進めてきた結果、徐々に退学者が減少しています。	(課題) 項目6-3にて生徒の低評価が見られる。 (解決方法) 生徒への退学対策の取組みを周知する。

評価項目			1:不十分 2:やや不十分	3:どちらともいえない	4:おおむねよい 5:よい	備考
6-1	本校では、国家試験合格率向上のための適切な指導がなされている。	生:	17%	35%	48%	特別講義 業者模試 科内会議
		保:	14%	39%	47%	
		教:	6%	21%	73%	
6-2	本校では、就職率100%を目指した適切な進路指導がなされている。	生:	18%	39%	43%	就職相談
		保:	11%	42%	47%	
		教:	3%	27%	70%	
6-3	本校では退学率を下げるための対策がなされている。	生:	40%	35%	25%	教務会議 低学力者への指導 個別指導の徹底
		保:	18%	42%	40%	
		教:	9%	21%	70%	
6-4	本校では、卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握している。	教:	6%	39%	55%	実習施設訪問 同窓会との連携
6-5	本校は、卒業後のキャリア形成への効果を把握し教育活動の改善に活用されている。	教:	6%	61%	33%	卒業生講演会

基準7. 生徒支援 自己評価項目	
1 各学科の教育目標、育成人材像に向けて入学前から卒業後まで生徒支援が整備され組織的に行われているか(入学前) 2 各学科の教育目標、育成人材像に向けて入学前から卒業後まで生徒支援が整備され組織的に行われているか(在学時) 3 各学科の教育目標、育成人材像に向けて入学前から卒業後まで生徒支援が整備され組織的に行われているか(卒業後) 4 上記以外を通じての生徒支援	
項目総括	特記事項(課題と解決方法)
平成27年度の求人数は、20,123人であり、堅調に推移しました。内定率に関しては平成28年3月末で96.2%となり、こちらも順調に推移しました。平成27年度の学内就職ガイダンスについては、106件を超える企業様に來校いただき、説明会・選考会を実施しました。他に個別の面接指導や卒業生を招いての講演会などを積極的に実施しました。 生徒相談に関しては、カウンセラーが個別に相談に応じております。 生徒の経済的な支援は、分割納入制度や各種奨学金、法人独自の奨学金制度を創設しています。 生徒の健康管理については、毎年健康診断を実施しており、また、予防措置等を図っています。 保護者との連携は、電話連絡で日常的に行っているほか、三者面談を毎年行っています。 また、保護者会を年2回開催して、学校の取組みと就職状況などを報告しています。	(課題) 生徒への周知。 (解決方法) あらゆる制度を通して、生徒への周知を図る。

評価項目			1:不十分 2:やや不十分	3:どちらともいえない	4:おおむねよい 5:よい	備考
7-1	本校では、生徒に対する経済的な支援体制は整備されている。	生: 保: 教:	33% 16% 18%	37% 43% 21%	30% 41% 61%	学内奨学金制度
7-2	本校では、健康面や安全面に対する危機管理(病気や怪我の際の報告など)は適切になされている。	生: 保: 教:	23% 11% 6%	32% 32% 12%	45% 57% 82%	諸規程等
7-3	本校では、課外活動に対する支援体制が整備されている。	教:	6%	52%	42%	部活動 ボランティア
7-4	本校では、生徒の生活環境への支援が行われている。	生: 保: 教:	29% 17% 30%	38% 44% 30%	33% 39% 40%	安全講習 禁煙セミナー 携帯講習
7-5	本校では、保護者と適切に連携している。	教:	0%	36%	64%	保護者会 保護者面接
7-6	本校では、卒業生への支援体制が整備されている。	教:	15%	52%	33%	卒業後の国家試験対策
7-7	本校では、社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されている。	教:	9%	49%	42%	社会人入試
7-8	本校では、キャリア教育・職業教育に対する取組みが適切に行われている。	生: 保: 教:	14% 12% 12%	49% 44% 46%	37% 44% 42%	総合教育Ⅰ・Ⅱの導入 職業実践専門課程

基準8. 教育環境 自己評価項目	
計画的・組織的に教育環境が整備されているか。	
項目総括	特記事項(課題と解決方法)
施設設備については、常に使用状況確認を行い、使用不能(不良)の場合に対応するため、計画的な予算化を実施しています。 校外実習については、担任教員による計画的な実習地訪問を実施し、関係機関との連携を常に図っています。	(課題) 項目8-1にて低評価が見られる。 (解決方法) パソコンの更新と図書関係等の充実を図る。

評価項目			1:不十分 2:やや不十分	3:どちらともいえない	4:おおむねよい 5:よい	備考
8-1	本校の施設・設備は充実している。	生:	34%	27%	39%	教室設備
		保:	14%	34%	52%	
		教:	37%	30%	33%	
8-2	本校の校外実習では、関係機関との密接な連携が図られている。	生:	19%	34%	47%	臨床実習 臨地実習
		保:	12%	36%	52%	
		教:	6%	15%	79%	
8-3	本校は、環境美化の推進に努めている。	生:	19%	38%	43%	清掃活動
		保:	10%	41%	49%	
		教:	12%	36%	52%	
8-4	本校の防災に対する体制は整備されている。	生:	16%	36%	48%	消防訓練
		保:	12%	40%	48%	
		教:	15%	27%	58%	

基準9. 生徒の受入れ募集 自己評価項目	
生徒の受入れ募集は適切に行われているか。	
項目総括	特記事項(課題と解決方法)
毎年6月に高校の進路指導主事を対象とした学校説明会を開催し、学校の現状や国家試験対応(合格・不合格結果を含む。)、就職状況等を情報提供しています。 また、定期的に全教職員で高校訪問を実施し、学校案内やイベント情報を進路指導担当の先生方に周知しています。	(課題) 学納金等 (解決方法) 内容の検討を行う。

評価項目			1:不十分 2:やや不十分	3:どちらともいえない	4:おおむねよい 5:よい	備考
9-1	本校の生徒募集活動において、高等学校等に教育成果などの情報は正確に伝えられている。	教:	12%	30%	58%	高校訪問 TVCM
9-2	本校の生徒募集活動は適正に行われている。	教:	12%	27%	61%	募集要項
9-3	本校の学納金は妥当なものとなっている。	生: 保: 教:	32% 21% 0%	42% 45% 24%	26% 34% 76%	募集要項 保護者会
9-4	本校の入試情報等は、十分に情報が提供されている。	生: 保:	18% 10%	39% 43%	43% 47%	募集要項 ホームページ

基準10. 財務 自己評価項目	
中長期的に学校の財務基盤は安定しているか。 予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 資産管理は適切に行われているか。 会計監査が適切に行われているか。 財務情報の公開の体制はできているか。	
項目総括	特記事項(課題と解決方法)
年度予算を計画的に管理しており、毎月予算会議で検証しています。 また、物品等の定期的な棚卸しや固定資産台帳の整理を実施して無駄のない予算執行等に努めています。	(解決方法) 備品の充実を図る。

評価項目			1:不十分 2:やや不十分	3:どちらともいえない	4:おおむねよい 5:よい	備考
10-1	中長期的に学校の財務基盤は安定している。	教:	6%	55%	39%	安定している。
10-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。	教:	18%	55%	27%	予算会議
10-3	財務について会計監査が適正に行われている。	教:	0%	55%	45%	決算監査の実施
10-4	財務情報公開の体制が整備されている。	教:	18%	55%	27%	ホームページ
10-5	本校の物品・備品管理などはきちんと行われている。	生: 保: 教:	30% 17% 12%	28% 44% 36%	42% 39% 52%	資産台帳

基準11. 法令等の遵守 自己評価項目	
法令等の遵守がなされているか。	
項目総括	特記事項(課題と解決方法)
個人情報の管理は、システム上におけるセキュリティの強化を図り、漏洩等に対応したものとなっています。また、人権研修等へ教職員が積極的に参加することができるよう職場環境を整備しています。なお、社会に信頼される学校であり続けるためにコンプライアンスの徹底に努めています。	(課題) 自己評価・学校関係者評価方法などの検討と改善。 第三者評価の実施に向けた総合的な検討。 (解決方法) 自己評価報告書を職員へ回覧する。

評価項目			1:不十分 2:やや不十分	3:どちらともいえない	4:おおむねよい 5:よい	備考
11-1	法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。	教:	6%	41%	53%	各設置基準
11-2	本校では、個人情報に関し、その保護のための対策がとられている。	生: 保: 教:	12% 8% 6%	30% 40% 34%	58% 52% 60%	セキュリティ対策
11-3	自己評価の実施と問題点の改善が行われている。	教:	12%	44%	44%	学校関係者評価委員会
11-4	自己評価結果を公開している。	教:	25%	31%	44%	ホームページ

基準12. 社会貢献・地域貢献 自己評価項目	
社会活動への取組みが推進されているか。	
項目総括	特記事項(課題と解決方法)
自治会(生徒)を中心とした近隣の清掃活動や地域主催のイベント等に積極的に参加することにより、地域の学校や住民等との連携に努めています。 なお、本校では、ボランティア部を設置して各種団体からのボランティア要請に応じています。	(課題) 概ね適切であるが、さらなる貢献が求められる。 (解決方法) ボランティアの充実・地域との連携

評価項目		1:不十分	2:やや不十分	3:どちらともいえない	4:おおむねよい	5:よい	備考				
12-1	本校は、生徒や施設を活用した社会貢献や地域貢献に努めている。	生: 14%	保: 10%	教: 25%	44%	49%	37%	42%	41%	38%	地域ボランティア
12-2	本校は、生徒のボランティア活動を奨励、支援している。	生: 14%	保: 13%	教: 19%	34%	48%	10%	52%	39%	71%	地域からの要望等に応じた活動を実践している。

平成27年度

熊本駅前看護リハビリテーション学院
学校関係者評価報告書

平成27年度 学校関係者評価報告書

1 はじめに

学校法人青照学舎が運営する熊本駅前看護リハビリテーション学院の学校関係者評価委員会は、学校評価に関する関連法令に基づき、平成27年度の自己評価報告を基本とした学校関係者評価を実施いたしましたので、ここにご報告します。

学校関係者評価は、学校自らが選任した教育関係者、業界関係者、卒業生、保護者等の学校関係者が、学校自らが実施した「自己評価」の結果について評価することを基本として行う評価で、ホームページ等に公表いたします。

本校といたしましては、学校関係者評価の結果を踏まえ、今後も学校関係者と連携・協力し、学校運営の改善・強化、教育の質の向上、教職員の資質・能力の向上を図って参ります。

2 学校関係者評価について

(1) 目的

学校関係者評価は、自己評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高め、また、生徒・卒業生、関係業界、職能団体、高等学校、保護者・地域住民など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善等を図ること等を目的とします。

(2) 評価のポイント

- ① 自己評価結果の内容が適切か。
- ② 自己評価結果を踏まえた今後の改善方策は適切か。
- ③ 学校の重点目標や自己評価項目等が適切か。
- ④ 学校運営の改善に向けた実際の実践が適切か。

(3) 評価期間

平成27年4月1日～平成28年3月31日

(4) 評価結果の公表

- ① 評価結果や今後の改善方策等を取りまとめ公表します。
- ② 評価結果は、次年度の学校運営や教育活動等について具体的に改善を図ります。

3 学校関係者評価委員会について

(1) 活動内容

- ① 自己評価結果の評価

- ② 学校関係者評価委員会の開催
- ③ 改善意見、助言
- ④ 施設等の確認

(2) 学校関係者評価委員会の委員、事務局

① 学校関係者評価委員 8名

委員氏名	所属名	役職名
山口 里美	公益社団法人 熊本県理学療法士協会	理事
内田 正剛	一般社団法人 熊本県作業療法士会	会長
松村 光一	医療法人 桜十字 桜十字病院 リハビリテーション部	部長
東島 美佳	医療法人財団 聖十字会 聖ヶ塔病院 リハビリテーションセンター	科長
橋口 玲子	医療法人 博光会 ぼたん園	副施設長
北原 政典	熊本県立熊本西高等学校	副校長
中ノ森 若子	熊本駅前看護リハビリテーション学院 後援会	会長
池田 健志郎	熊本駅前看護リハビリテーション学院 同窓会	会長

② 学校関係者評価事務局（教職員） 7名

氏名	所属名	役職名
高野 茂	熊本駅前看護リハビリテーション学院	学校長
黒川 一也	熊本駅前看護リハビリテーション学院	副学校長
羽山 賢一	熊本駅前看護リハビリテーション学院	教頭
白石 正行	熊本駅前看護リハビリテーション学院	事務長
竹井 千里	熊本駅前看護リハビリテーション学院	看護学科教務部長
松本 泉	熊本駅前看護リハビリテーション学院	教務部長代理兼 理学療法学科長
有働 正二郎	熊本駅前看護リハビリテーション学院	作業療法学科長

(3) 評価項目

- 基準1 教育理念・目標
- 基準2 学校運営

- 基準3 教育活動
- 基準4 生徒指導等
- 基準5 特別活動等
- 基準6 学修成果
- 基準7 生徒支援
- 基準8 教育環境
- 基準9 生徒の受入れ募集
- 基準10 財務
- 基準11 法令等の遵守
- 基準12 社会貢献・地域貢献

(4) 学校関係者評価委員会の開催状況

- ① 日時 : 平成28年10月11日(火) 14:00~16:00
- ② 場所 : 熊本県熊本市西区春日2丁目1-15
熊本駅前看護リハビリテーション学院
リハ棟3階会議室
- ③ 出席者 : 学校関係者評価委員8名
学校関係者評価事務局7名
- ④ 議題・内容 : 開会、事務局より挨拶
委員及び事務局職員紹介
職業実践専門課程に関する説明
学校概要説明
平成27年度自己評価結果についての説明
質疑・意見交換、閉会

4 自己評価結果に対する学校関係者評価、委員の意見

(1) 自己評価結果に対する学校関係者評価委員の評価、意見等を実施状況に照らし、以下の5段階で記載した。

- ・適切(実施)
- ・ほぼ適切(概ね実施)
- ・普通(問題や課題はあるが一通り実施)
- ・やや不適切(少し実施)
- ・不適切(実施していない)

(2) 委員の意見

学校関係者評価委員会での意見を各項目毎(基準毎)にまとめた。

5 評価項目毎の状況

評価項目の基準1～基準12までの状況は次のとおりです。

基準1 教育理念・目標	評価	適切
-------------	----	----

【自己評価結果】

・教育理念に関して、生徒・保護者への周知がやや不十分であったことを報告。学生便覧・パンフレット・ホームページに掲載し、周知を図っていることを説明。

【委員の意見】

・委員の意見は特になし。

【対応、改善策】

・学生便覧やパンフレットなどを通して教育理念や教育目標の周知を行っているが、この他にも周知方法がないか検討する。

基準2 学校運営	評価	適切
----------	----	----

【自己評価結果】

・評価項目 2-3「本校の運営組織や意思決定機能は、有効に機能している。」評価項目 2-4「本校の人事・給与に関する規程等は整備されている。」の項目について、教職員のアンケートの結果が低評価であったことを報告。

【委員の意見】

・管理職と専任教員及び事務職員の話し合いの場はあるか。また、目標管理の体制はどのようなになっているか。

【対応、改善策】

・管理職は月に2回運営委員会を実施しており、会議の中で各学科より生徒の情報なども含めた意見交換、報告を行っている。また、職員は年度当初に個々で目標を立てており、管理職と教職員とで面接の場を設け、目標の達成度合いを確認している。

基準3 教育活動	評価	ほぼ適切
----------	----	------

【自己評価結果】

・評価項目 3-12「本校では先端的な知識・技能を習得するための研修の取組みが行われている。」評価項目 3-13「本校では教員の指導力育成のための取組みがなされている。」

の二つの項目で教職員の評価が低かったことを報告。

【委員の意見】

- ・自己評価の結果に基づく対応を行う説明を行い、委員の意見は特になし。

【対応・改善策】

- ・教職員の研修に関しては研修計画を出してもらい、予算を組んで対応している。

基準4 生徒指導等	評価	適切
-----------	----	----

【委員の意見】

- ・概ね適切であり、問題はないと思われる。

【対応・改善策】

- ・今後も継続して、生徒指導の意図の徹底を図り、取り組むものとする。

基準5 特別活動等	評価	ほぼ適切
-----------	----	------

【委員の意見】

- ・子どもが大きくなると、学校のことを聞く機会も少なくなる。
- ・後援会総会を年に1回開催しているが、保護者の出席率が低いため、年に数回送付する成績表と一緒に、教育理念や生徒が行っている活動内容が書かれた広報誌等を添えていただきたい。
- ・保護者はHPをみる機会も少ない。
- ・広報をする力が弱いのではないか。学校の活動内容に関しては、職員が作成するのではなく生徒に作らせてみるのもよいのではないか。

【対応・改善策】

- ・HPを見ない方のために校長室の前に掲示板を作った。
- ・Facebook・Twitterなども活用している。
- ・同窓会は、今年広報誌を出すことができた。年に1回出すことで、卒業生にも学校の状況や活動の報告ができ、卒業しても学校を訪問しやすくなるのではないか。

基準6 学修成果	評価	ほぼ適切
----------	----	------

【自己評価結果】

- ・数字上、退学者の数は減っている。退学の主な理由となっているのは、進路再考のためと考えられる。

【委員の意見】

- ・評価項目6-2「本校では、就職率100%を目指した適切な進路指導がなされている。」の項目で、生徒と教職員が共に大きく下がっている理由は何か。

【対応・改善策】

- ・アンケートを実施した学年が、就職を考える最終学年ではなく、理学・作業療法学科の2・3年生、看護学科の2年生であるため、自己評価のとおりになっていないか。
- ・1年次から就職ガイダンスは行っているが、低学年は就職に関して関心度が低いのが現状。就職関係の指導強化と生徒の意識向上を図る。

基準7 生徒支援	評価	ほぼ適切
----------	----	------

【委員の意見】

- ・震災後、阿蘇方面に実習に行っている生徒を、安全のため実習先の変更をしたと報告があったが、医療人を育てるという意味で行かせても良かったのではないか。

【対応・改善策】

- ・今回の場合、病院側から実習生の受け入れが難しいといわれ、本校としては生徒の安全も考慮し、実習地変更の手段をとった。非常に難しい問題であり、深く考えていかなければならない。

基準8 教育環境	評価	適切
----------	----	----

【委員の意見】

- ・設備・備品の修繕整備など、計画的に予算化して改善していること、及びパソコンの入れ替えを行ったことを説明し、委員の意見は特になし。

【対応・改善策】

- ・今後も計画的に継続して、パソコンの更新、図書関係等の充実を図っていく。

基準9 生徒受入れ募集	評価	ほぼ適切
-------------	----	------

【委員の意見】

- ・看護学科に関して男子の受け入れ人数を増やすことは出来ないか。

【対応・改善策】

- ・男子生徒の産婦人科実習の受け入れ先が数少なく、本校においては、実習施設の確保を図っているが、非常に難しい状況である。

基準10 財務	評価	適切
---------	----	----

【委員の意見】

- ・本校の財務に関する説明を行う。委員の意見は特になし。

【対応・改善策】

- ・本校における財務状況については概ね適切であると考えている。物品等の定期的な棚卸しを行っていく。

基準11 法令等の遵守	評価	適切
-------------	----	----

【委員の意見】

- ・自己評価報告書のアンケートの回収が、職員で2名出来ていないのは良くないのではないか。

【対応・改善策】

- ・平成27年度の自己評価なので、平成28年度4月に入職した職員が数名いるためではないかと考えられる。しかしながら、職員の回収率は100%を目指していく。

基準12 社会貢献・地域貢献	評価	適切
----------------	----	----

【委員の意見】

- ・学校行事としての清掃活動などの説明をし、委員の意見は特になし。

【対応・改善策】

- ・概ね適切ではあるが、ボランティアの充実・地域との連携を図っていく。

6 総括

学校関係者評価委員会では、委員の皆様から貴重なご意見・ご指導を頂き、ここに感謝を申し上げますとともに、改めて学校関係者評価の重要性を認識いたしました。全体を通して、「適切・ほぼ適切」という評価を頂きましたが、頂戴しました示唆に富んだご意見・ご指摘を真摯に受け止め、教育水準向上に努めていきたいと思いをします。

また今回の学校関係者評価委員会は、平成 28 年熊本地震後ということもあり、災害が起こった際、学校がどうあるべきか、地域から何を求められているのかを考えさせられる機会にもなりました。

医療専門職を育てる本校としましては、社会のニーズに応えた教育活動・生徒育成を目標に励みたいと思いをします。

以上